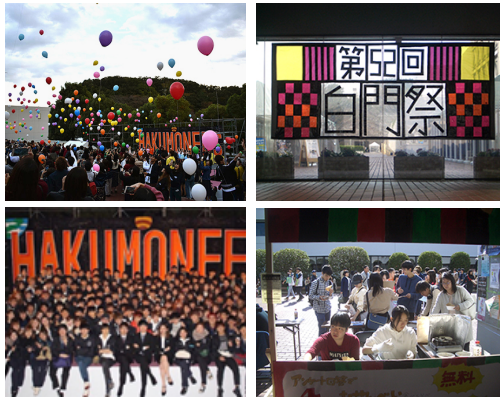


# 白門経友会

**多摩キャンパスは  
晩秋を迎えております。**

今年が暑かった夏の後に秋が瞬く間に過ぎ、すでに木枯らしの吹く冬も間近となりました。学生たちは後期授業に専念しております。

多摩キャンパスでは、十月三十一日から十一月四日まで白門祭が行われました。総来場者数は五万人を超える関東最大級の学園祭で今年で第五十二回を迎えました。



**最終講義等のお知らせ**

中央大学経済学部において、長年にわたり教育・研究に貢献された中條誠一先生、鷲谷徹先生、長谷川聰哲先生、福田川洋二先生が二〇一九年三月末日をもって定年を迎えられ、ご退職されます。なお、最終講義等につきましては次のとおり開催される予定です。

**中條 誠一 教授**

《最終講義》

日時：二〇一九年一月二十一日(月)

十五時～十六時三十分

場所：中央大学多摩キャンパス  
八号館八二〇六号室

テーマ：「国際金融の現場から学んだこと、伝えたかったこと」

《記念パーティー》

日時：二〇一九年一月二十一日(月)

十七時～十九時

場所：中央大学多摩キャンパス  
一号館一四一〇号室

会費：五千元(ただし、学生・院生は千円)

**鷲谷 徹 教授**

《最終講義》

日時：二〇一九年一月二十四日(木)

十一時～十二時三十分

場所：中央大学多摩キャンパス  
八号館八三〇一号室

テーマ：「社会政策の現代的課題」  
「デイサービス・ワークを指して」

《記念パーティー》

日時：二〇一九年一月二十四日(木)

十三時～十五時

場所：中央大学多摩キャンパス  
一号館一四〇八号室

**長谷川 聰哲 教授**

《最終講義》

日時：二〇一九年一月二十五日(金)

十五時～十六時三十分

場所：中央大学多摩キャンパス  
八号館八三〇六号室

テーマ：「経済貿易と関税の経済学」

《記念パーティー》

日時：二〇一九年一月二十五日(金)

十七時～十九時

場所：中央大学多摩キャンパス  
ヒルトップ二階西側

会費：五千元(ただし、学生・院生は千円)

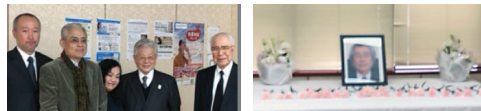
は千円)

**山本幹雄さんを偲ぶ会**

長年に渡り、白門経友会に貢献された山本幹雄さんが去る十月六日に八十一歳で逝去されました。十二月七日に多摩センターにて忍ぶ会を行いました。

山本さんは一九三七年大分県に生まれ、家族で中国へ移住し、終戦の年に松山へ帰り、一九六〇年に本学部を卒業されました。卒業後、(株)協和の社長として活躍し上海、蘇州と東京を行き来され三十年間にわたりピアノを中国に寄付され日中交流に貢献されました。

ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。



\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

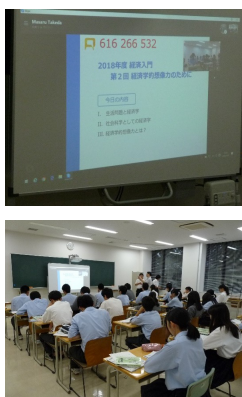
中央大学高校において「遠隔授業」科目等履修制度が開始されました。

本年度より、多摩キャンパスで行われる経済学部の講義《後期…「経済学入門」(武田勝准教授)》をインターネット中継で、本校教室にて受講できる制度が始まりました。十四週が講義、試験と課題レポートによって評価される点においては、高校生だからという手加減はありません。一定の評価基準に達した者には、経済学部に進学した際に単位が認定されます。今年度は、三年二十三名、二年四名の計二十七名が受講しています。

講義は、武田先生のレジュメが配布され、講義中は多摩キャンパスと同じ画面を見ます。内容については、経済学を学ぶことの意義からスタートして、最近では昭和から平成までのGDP変動の理由について、経済学的観点で考察するという授業が行われていました。はじめは、武田先生も遠慮されたせいか、主に多摩キャンパスの大学生に質問をされていましたが、今は、高校生にもよく問が投げかけられます。突然指名されるので高校生も油断ができません

ん。武田先生の明るく人柄と、ときどき垣間見える学問への厳しさが入り混じって、生徒達にとってはまさに大学への「ゲートウェイ」となっていると感じています。

来年度からは、より高度な会議システムを導入することも決まっています。経済学部においては、本校はじめ他の附属高校との様々な高大連携プログラムが実施されており、今後もより一層の充実が期待されます。(本記事は、中央大学高校・梅原弘文先生、仲森友秀先生から投稿いただきました)



### 経済学部の特色のある活動

前述の高大連携事業としての中央大学高校との遠隔授業などの他、最近の特色のある学部活動についてご案内させていただきます。

#### 《ゼミナール》

経済学部では、自分の興味のある一つのテーマを二年次から四年次まで三年かけてじっくり研究し、本質

に迫るゼミ活動への参加を奨励しています。ゼミによっては海外で実地調査を行い英語で論文を書いたり、地方自治体の取り組みに参加して学生から政策提言したりと、特徴的な活動をしているゼミもあります。ゼミは所属する学科にかかわらず、全十六の分野、約六十テーマから興味のあるものを選択することができます。

なお、ゼミの全体的な活性化のために経済学部ゼミナール連合会があります。当ゼミナール連合会は、ゼミナール同士の交流機会を創出し、研究活動が活性化するように、さまざまなイベントを企画・運営している学生主体の団体です。例年十月に、「経済学部プレゼンテーション大会」というゼミ対抗の研究発表大会を開催しております。

#### 《グローバル人材育成》

経済学部では、地球規模で活躍できる人材の養成のため、充実した独自のプログラムを展開しています。

##### 一・海外インターンシップ

授業を通して国際的感覚や知識、ビジネスマナー、語学力を身につけるとともに、実際に海外の企業での研修を経験することにより、国際的な視野を持ち、働きの場を世界に拡

げて国際的に活躍できる人材を育成することをねらいとしています。

##### 二・グローバル・フィールド・スタディーズ

世界で起こっている様々な経済問題を解決するために、現場で考え、現場で行動することができる人材が求められている中、経済学部の多くのゼミが、活動の一環として海外へ実地調査に行き、研究活動を行っています。

##### 三・グローバル・リーダーズ・プログラム

グローバルな世界で、リーダーとして活躍できる資質を備えられる学生の養成をめざしたプログラムです。ゼミを基盤とし、世界の各地域におけるさまざまな課題について、学生自身が調査、分析、改善のための提案、プレゼンテーション等を行います。

#### 《キャリア教育》

経済学部では、自立した社会人・職業人としての自己実現を目指し、自らの将来設計について考えるための手助けとなる「キャリア科目」に力を入れています。

##### 一・ビジネス・プロジェクト講座

一年生を対象とした企業との産学連携による次世代プログラムです。

入学直後の早い段階から、民間企業の取り組みを実体験し、学生がみずから主体性を引き出すとともに、社会で必要なスキルを認識し、以降の学生生活につなげることをねらいとしています。

【協力企業】

日本航空株式会社、株式会社セブン・イレブン・ジャパン、株式会社日本アクセス、株式会社永谷園、株式会社東急エージェンシー、株式会社ニチレイロジグループ、株式会社ミライト、リコージャパン株式会社  
**二. インターンシップ**  
 インターンシップとは「学生がみずから専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う」制度です。経済学部では、この制度の有効性に着目し、全国の大学に先駆けて一九九三年度に正規の授業科目として導入しました。以来二十年以上に及ぶ実績と成果から、受入先の自治体や企業の数も年々増加し、自分の興味や将来の希望に沿って選択することが出来ます。また、事前・事後学習は、専門の実務家が担当し、専門分野の講義からビジネススキル、日常的なマナーまで手厚い指導を受けることができるのも大きな魅力です。

【受入先機関・企業】

自治体

国立市役所、稲城市役所、八王子市役所、所沢市役所、小平市役所、多摩市役所、府中市役所、調布市役所、立川市役所、三鷹市役所、小金井市役所、板橋区役所、杉並区役所、中野区役所、江東区役所、東京二十三区清掃一部事務組合、特別区人事・厚生事務組合、東京都政研究コース(関連施設にて見学調査)

民間企業

日立製作所、協和エクシオ、東京書籍、近畿日本ツーリスト、内田洋行、日本データリンク、野村證券、SCC、VTVジャパンほか

金融

HCアセットマネジメント、住友生命、セコム損害保険ほか  
 ジャーナリスト  
 読売新聞社、東京新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、日本ケーブルテレビジョン

海外インターンシップ

海外の現地企業及び日系企業(アメリカ・イギリス・オーストラリア・ベトナム ほか)、海外の白門会「中央大学OB会」(ロサンゼルス)、今後はタイ、インドネシア、シンガポールを予定 \*下表参照↓

国名	日数	受入人数	実習内容
アメリカ (ロサンゼルス)	2週間	6名	・ロサンゼルスエリアの様々な企業(日系、現地企業)を訪問し、インタビュー形式で対話することにより、海外で働くことや自らのキャリアについて考え、視野を広げるための企業訪問プログラム。 (訪問先)FEDEX、カルティエ・社、Manufactures Bank、井村屋、スズキ自動車、シラトパークホテル、会計事務所、JETRO等
イギリス (ロンドン近郊)	7日間	4名	・企業向けの研修プログラム等を提供する企業での実習。少人数のアウトホームな現地企業である。 (実習内容) デスクワーク、会議同席、営業同行、企業に対するプレゼンテーションほか
アメリカ (サンフランシスコ)	2週間	2~3名	・現地在住の日本人向けの情報誌(フリーペーパー)や情報番組を制作する会社での実習。 (実習内容) 営業同行、取材、イベント企画、現地企業訪問・インタビュー、現地大学訪問ほか
オーストラリア (シドニー ほか)	3週間 ~ 4週間	10名	・語学力、希望に合わせて実習先が決定。原則、1機関につき1名の受け入れ。 (実習先) 現地/日系企業でのオフィスワーク、ショップ(カフェ・土産屋等)での接客、高校の日本語教育のアシスタント、幼稚園での保育サポート ほか
ベトナム (ホーチミン) *2018年度新規派遣先	4週間	10名	・使用言語は、日本語(企業により英語・ベトナム語) (実習先) 現地/日系企業(旅行会社、広告・メディア、コンサルティング、IT企業ほか)でのオフィスワークや、営業同行ほか
フィリピン (マニラ)	2週間	10名	・ツーリズム関連の政策提言等を行う。マニラ随一の五つ星ホテルでのホテル業実務研修も行う。
マレーシア (クアラルンプール)	3週間	6名	・1週間の英語研修の後、ホテルで約2週間のインターンシップを行う。
タイ (バンコク)	3週間	6名	・ツーリズムというテーマのもと、現地の観光庁やJTBの現地オフィスで実習を行う。バンコク市内のホテルでのホテル業実務研修も行う。
タイ (バンコク)	2週間	8名	・顧客との資料準備 ・物流センターの受発注業務のフォロー ・Bakery工場での配送業務 ・マーケティング業務のフォローほか
中国 (吉林省延辺自治区延吉市)	10日間	6名	・ITサービス業の仕組みを知り、日本と中国との業務の進め方の違いを学ぶ。 ・中国シンボリック情報の社員や現地にある延辺大学の学生との交流により、習慣、思考、価値観の違いを知る。 ・中国、延吉での各視察を通じて、異文化を理解して見聞を広める。
ベトナム (ホーチミン、ダラット、ハノイ)	12日間	10名	ホーチミン：同志社大学・ホーチミン工科大学・中央大学学生でチームを構成し、“人材採用課題”解決に取り組む。 ハノイ：GAコンサルタントでは、人材紹介企業インターン生として、企業訪問等を通してベトナムにおける「人材ビジネス」を学ぶ。



え、あの先生が シリーズ⑳

経済学部 中川 康弘



二〇一七年四月に着任し二年目が過ぎつつある中川康弘(なかがわやすひろ)と申します。専門は教育学ですが、研究領域は日本語教育と多文化教育で、主に全学の留学生への日本語を担当しております。これまでに国内では専任として神田外語大学、大阪経済法科大学で、非常勤として電気通信大学で教え、海外では青年海外協力隊員としてベトナムで二年、国際交流基金専門家としてオーストラリアで二年、現地の先生や学生と関わってきました。ベトナムの現場では日本語を教える意味を、オーストラリアでは広大な各州とトンガなど大洋州を飛び回り、多文化国家における言語教育の在り方も考えてまいりました。

中大には学部と選科の留学生がいますが、みんな中大生であることに誇りをもっていると感じます。反面、意見表出や交流に遠慮がちな者もい

るので、日本語教育を通じて、一人ひとりの「顔」を際立たせる力になればと思っております。

授業風景をご紹介します。初級の選科生クラスで動詞「なる」を教えていた時のことです。「なる」は教科書で変化動詞と定義されていますが、あるカナダ人留学生は飲食店で「牛丼になります」と言われ戸惑ったことを話してくれました。ご存じの通り、「なる」の過剰使用は「クツション効果」の影響ですが、教科書と実際使用にはそのような違いが多々あります。最近「夜ごはん」なんていう表現も耳にしますから、日本語教師には言語規範に固執せず、実際場面への柔軟なマインドが求められます。また地方学会から戻った翌日の学部クラスでのことです。授業始めの機材の準備中、みんなから「お土産は？」と冗談っぽく聞かれ、慌ただしく「小枝」と黒板に走り書きしながら伝えました。ご当地「小枝」を買ってきたのですが、みんなの反応は「?」。なぜだと思えますか? そう、日本人にとって「小枝」と言えば、あのお菓子ですが、留学生は文字通り「小枝」をイメージしたのです。ここに社会文化知識の差があります。アカデミッ

ク・ジャパニーズが求められて久しいですが、私は留学生にはぜひ日本人学生と「雑談」ができるぐらいの日本語力も身につけてほしいと思います。それが留学生と日本人学生の垣根を越えるツールになると思うからです。また目標は言語文化知識の獲得にとどまりません。ジェンダー、ろう者の言語など、ことばと権力に係るトピックを基にした自作教材を使うこともしばしば。アイヌを題材にした際、少数民族の問題が絡むゆえ議論が滞る時もありました。しかし単一の文化観を越えた複眼思考を育むために、社会的なトピックにも果敢に取り組んでいきたいと思えます。

次年度からFLP演習も担当させていただきます。予定で、日本人学生に異文化への関心や日本語使用を振り返る学びを提供できればと思っております。日本語教育を通じて中大のグローバル化にまい進する所存ですので、今後ともよろしくお願いたします。



編集後記

本会に長くご尽力いただいた山本さんが亡くなりました。私がこの会に関わるようになった十六年ほど前は幹事長をされていて、山本さんが経営されていた稲城の警備会社で常任幹事会を定期的に行っていた時期もありました。終わった後はファミレスでの食事で、中大のこと、中国のことなど熱心に語られる独特の話しぶりが今も耳に残っています。心からご冥福をお祈り申し上げます。

あれから常任幹事のメンバーはかなり入れ替わりりましたが、先輩方の思いをしつかり受け継ぎ、さらに会を発展させてゆきたいと思っております。

(幹事長 濱岡 剛)

2018年12月10日 第71号  
発行 白門経友会常任幹事会  
編集 白門経友会編集委員会  
〒192-0393  
東京都八王子市東中野742-1  
中央大学経済学部内  
URL : www.wg-keiyukai.com  
Fax : 042-673-3425